

航空機搭載レーザプロファイラが捕らえた

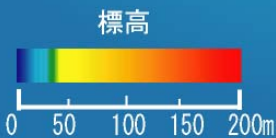
国会議事堂周辺の状況（1）

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

データ収集：朝日航洋（株）

本号から航空機搭載レーザプロファイラ（スキャン型レーザ測距装置）がとらえた国土の姿を見てみます。レーザプロファイラは、レーザパルスの往復時間から航空機と地表面の距離を計測し、対象物の三次元位置情報（緯度、経度、標高）を取得するものです。航空機の姿勢は、汎用地球測位システム（GPS：Global Positioning System）と慣性計測装置（IMU：Inertial Measurement Unit）によって計測します。計測精度は、高さ方向±15cm、水平方向±50cm（対地高度の1/2,000）とされています。下図は、国会議事堂周辺の観測データから作成した標高区分図（シュードカラー表示）です。標高縮尺と対比して見て下さい。建築物、道路構造、植生状況等、地表面の形状を含めて様々な情報を読み取ることができるはずです。

データ観測日：2002年5月



標高区分図

